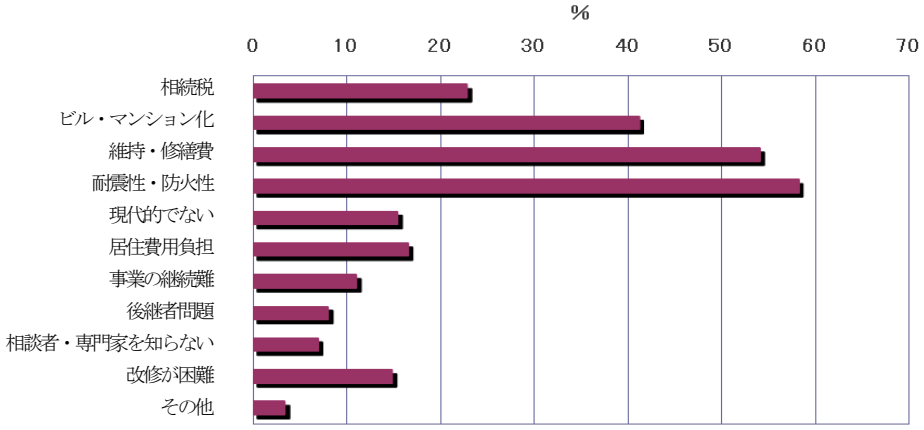

図3-5 京町家に住む上での問題点(「平成15年度京町家まちづくり調査」)

(2) 歴史的町並みの課題

景観に大きな影響を及ぼすものに電線，電柱類がひしめく「通り」がある。この電線，電柱類が歴史都市・京都の伝統と趣のある町並みを大きく阻害しており，これまでから，京都の美しさを取り戻すため，幹線街路に加えて伝統的建造物群保存地区など歴史的な町並みに配慮すべき区域や世界遺産周辺などにおいて無電柱化事業を進めてきた。

しかし，京都における歴史的な町並みに配慮すべき地区は多く，無電柱化はまだ緒についたばかりである。

また，文化財をはじめとした伝統的な建造物は火災や地震などの災害に対し脆弱であり，防災上の観点からもまちづくりを進めることが重要であることから，防災拠点施設の整備とともに，地域単位での防災意識を高めていくことが求められる。

写真3-23 町家と高層建築物

写真3-24 景観を阻害する電柱類

(3) 地域まちづくりの課題

京都は，個々の地域が自然，歴史，文化等に培われた地域固有の特性を有しており，市民をはじめあらゆる主体の協働により，それぞれの地域の個性を活かした歴史まちづくりを推進していくことが求められている。しかしながら，近年は住環境の変化等からひとひとのつながりが希薄になり，地域コミュニティが弱まりつつあると言われている。また，地域で活動する様々な団体の活動は活発になってきているが，地域まちづくりの推進のためには，各団体間の連携や取組のさらなる活性化が課題となっている。

京都の都心部では，多くの人が集まり，交流する中から，産業が生まれ，その産業を生業とする人々の定住が進んだ。そして定住者の生活を支える産業が形成され，そこに新たな職を求めて新たな人が入ってくるという，定住と産業が相互にかかわりながら拡大してきた歴史がある。

既存事業者や住民は新しい人々を受け入れ，経済的な豊かさを維持し，その豊かな生活が祭りなどの文化を育てた。そして，より豊かに住むための工夫が町家の奥深い魅力をつくり，安心して住み続けるための知恵がコミュニティの絆を深め，京都を日本文化の重層的な集積地へと高めていった。

このようにして京都は密度の高い都心居住が保たれ，互いに関わり合いながら暮らす人々の営みによりコミュニティが成熟されたことで，伝統的な町並みや